



同窓会会長  
占 部 売一

紅葉の季節となり、同窓生の皆様におかれましては、ますますお元気で活躍のことと推察いたします。

母校、名古屋学院大学は昨年大学院を設立し、新しい大学院棟、図書館にて講義を開始しました。名古屋の栄にあります中日ビルにて社会人のための講義施設、栄サテライトを設置し、体制もますます充実してまいりました。

同窓会も二万五千名を越える会に成長し、本年10月17日に名古屋ヒルトンホテルにおきまして、第一期生が卒業して30年が経過したことを記念し、30周年記念事業を開催いたしました。

記念事業は講演会と懇親会に分け、講演会は、上智大学文学部の教授 渡部昇先生より「これから日本の生きる道」という演題で講演を賜りました。この講演会には、一般市民の方にも参加いただきました。この講演を掲載したところ、900名を越える応募があり、抽選にて450名に参加いただきました。

また、懇親会におきましては、ご来賓に大学の教員、職員の皆様を始め、大学の理事、評議員、敬愛同窓会の役員にもご出席を賜り400名を越える同窓会員と旧交を温める機会を持つことができました。

この事業がこのように盛大に開催することができましたのは、役員、代議員を始め、多くのクラブの代表の皆様の絶大な協力の賜物と紙面をお借りして感謝を申し上げます。

今後も、機会がある毎に数々の事業を行つてまいりますが、同窓会の活動にご参加、ご協力を賜りますようお願いいたします。



理事長  
内 山 道 明

今年の夏は不順な天候でしたが、名古屋学院大学卒業生の皆さんは相変わらず各地で活躍のこと、うれしく感じます。

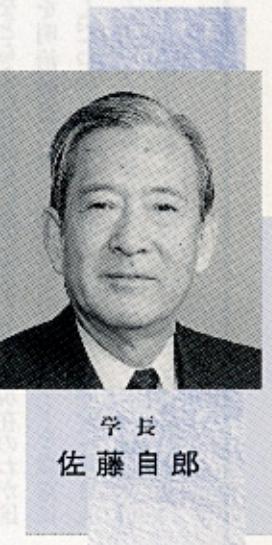
先日の30周年記念事業は大変盛大で、心からお慶びいたします。

大学は今、大学院の充実、経済学部の改組、編入定員増、地元との連携強化など、多くの難しい諸問題を抱えています。皆さんのご協力を切にお願いする次第です。

すでにお気づきのことと思いますが、名古屋学院大学の教學体制は非常に充実し、立派な学者が多くを占めています。今後とも、この傾向を強めて参りたいと念願しています。

今までありませんが、大学教育の成果は、卒業された方がどれだけ社会で活躍しておられるかによつて測られます。その意味でも、同窓生の皆さんの社会的な活躍は私どもの心からの願いです。

同窓生の皆さんのこの活躍が、同窓会という組織での切磋琢磨によって高揚するのをうながすことは、何よりも大事です。後輩のため暖かい助言、ご指導をお願い申し上げると共に、大学に対しまして、一層の協力を深め、母校である名古屋学院大学の発展に貢献いただけるよう切望いたします。



長自郎  
佐 藤 学

爽やかな季節となりました。同窓生の皆様には益々お元気に各方面において活躍の様子、心からお喜び申し上げます。

また本年は二十周年を迎えた同窓会に対しまして心からお祝い申し上げますと共に、この間における卒業生の皆様ののみならぬ努力の結果が社会における名古屋学院大学の評価を高めていたいたものと、深く感謝申し上げます。

同窓会としての活動も軌道に乗り、機会あるごとに大学に対しまして援助をいただきありがとうございます。会長はじめ役員の皆様の苦労に対しまして心から御礼申し上げます。

大学は昨年四月の大学院経済経営研究科(経済学専攻、経営政策専攻)、外国語学研究科(英語学専攻)に統いて、本

年四月中国語学専攻を開設することができ、修士課程は完成いたしました。また来春には経済経営研究科の後期(博士)

課程の開設準備が進んでおります。

ご承知のとおり、厳しい社会情勢のもとで、卒業してゆく学生諸君が就職を果たしてゆくためには以前にも増して、

本当に社会が求めている人間を育成することができる力と創造力を持った人間の育成を目指す必要性を感じ、建学の精神に基づく豊かな人格と専門知識を備えた学生を社会に送りだそうと心がけております。

また学生諸君にとって社会とのつながりの一番近い窓口は、何といっても同窓生の皆さんです。後輩のため暖かい助言、ご指導をお願い申し上げると共に、大学に対しまして、一層の

ご支援をお願い申し上げます。最後に、同窓会の益々の発展を祈念してご挨拶と致します。